



【留意事項】
 ○高潮浸水想定区域図は、水防法に基づき、報道情報に基づき、高潮による浸水が想定される範囲、浸水した場合に想定される水深等を表示した図面です。
 ○高潮浸水想定区域図の作成にあたっては、最悪の事態を想定し、我が国における既往最大規模の台風を基本とし、各海岸で潮位幅差（潮位と天文潮の差）が最大となるよう複数の経路を設定して高潮浸水シミュレーションを実施し、その結果を重ね合わせ、浸水の浸水深が示されるようにしております。
 ○温帯低気圧の進路は、現在の科学的知見に基づき、過去に実際に発生した台風や高潮から設定したものであり、これより大きな浸水が生じないという保証はありません。
 ○風ワラサの高潮を引き起こす台風（中心気圧として、我が国で既往最大規模の聖戸台風（昭和9年）を想定しております。なお、この経緯の中心気圧を持つ台風が来襲する確率は、三浦 真京彦、大塚浩、伊藤浩）で算出され、500年から1000年から1年に一度と想定されております。
 ○浸水深や浸水範囲は、鳥取の地形の凹凸や建築物の影響のほか、前述とした各種条件を認める事象により、浸水深外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなる場合があります。
 ○地形図は、主に平成20年度に作成されたデータを使用しており、現在の地形と異なる場合もあります。
 ○地下にながらんでいる地下トンネル、地下空間に存在するトンネル、地下空洞が浸水した場合、高潮が到達した後も、日々の干潮により、浸水が発生する可能性があります。
 ○地盤高が明瞭な場所（河川沿い）を除いては、堤防が浸水を受けた後、高潮が到達した後も、日々の干潮により、浸水が発生する可能性があります。
 ○地盤高の不明な場所（河川沿い）を除いては、浸水発生時に浸水が及ぶ可能性があるため、浸水発生時の浸水範囲を推定して表示しております。
 ○白風が来襲する前に避難を完了し、高潮警報や避難勧告が発令されるまでは、避難を継続する必要があります。
 ○今後、数値の精度や表記の変更等により、修正の可能性がございます。

【用語の解説】（四-1参照）
 ①高潮：低気圧の気象により、風による浸水する潮位の上昇現象。台風や発達した低気圧が通過するとき、潮位が大きく上昇することがあり、これを「高潮」といいます。
 ②浸水域：高潮や高波に伴う浸水・越流によって浸水が想定される範囲です。
 ③浸水深：地上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地盤面から水面までの高さです。
 ④潮位幅差：地上の各地点から算出した天文潮（推算潮位）と、気象等の影響を受けた実際の潮位との差（ずれ）を潮位幅差といい、その潮位幅差のうち、台風等の気象による風が原因であるものを特に「高潮幅差」といいます。
 ⑤高潮水位：台風来襲時に想定される海面の高さをT.P.基準で示したものを指します。